

コロナワクチンの「モデルナ CEO」がなぜか「恐ろしい予言」をしているワケ

2021/12/15 立教大学ビジネススクール教授 田中道昭

製薬業界の根本をぶちこわす

モデルナ CEO の「恐ろしい予言」

「我々はワクチン市場を完全に破壊することになる」

2021年7月、とあるアメリカの製薬企業のトップが、Bloomberg の取材に対してこう答えた。不穏なその言葉には満ち溢れた自信が宿っているが、それだけではない。

その3ヵ月前には、彼はこうも語っていたのだ。

「我々のワクチンは、製薬業界を破壊する可能性がある」

恐ろしい予言を繰り返す彼の名は、ステファン・バンセル氏。米モデルナの CEO である。

モデルナと言えば、日本人の半分以上が摂取したコロナワクチンの製薬メーカーである。

しかし、あなたが、彼らを単なるワクチン開発の会社と評価しているとしたら、それは大間違いだ。バンセル CEO の不敵な言葉のウラには、まさに従来の製薬業界そのものを破壊しつくす、脅威のポテンシャルがあるのだ。

筆者はこのほど『モデルナはなぜ3日でワクチンをつくれたのか』を上梓した。

また、前回の寄稿（『日本人は知らない…モデルナ製「コロナワクチン」をめぐる「驚くべき3日間」の話』・『コロナワクチンの「モデルナ社」、じつは「経営戦略」を見たら“ヤバイ内容”ばかりだった…！』）では、モデルナがたったの3日で新型コロナウイルスのワクチンの設計図を完成させたこと、さらにその秘密が、メッセンジャーRNA (mRNA) の技術やそれを司るプラットフォーム戦略にあることを紹介した。

ビッグファーマ・モデルナの「ヤバすぎる秘密」

筆者はモデルナを、「製薬界のアマゾン」と呼んでいる。まずは、アマゾンが過去20年で何をしたかを思い出してほしい。

当初はネット上で書籍を売る「本屋」に過ぎなかった彼らは、やがてあらゆるモノを販売するエブリシングストアへと変貌し、「アマゾンエフェクト」と恐怖の対象とされた。

アマゾンが従来の小売産業を破壊し大展開に導いたように、モデルナもまた製薬業界に同じ作用をもたらそうとしているのだ。

しかし、そのビジネスモデルは、分厚い内部留保を批判されている日本の大企業にとって、実に魅力的な手法であることをご存知だろうか。

その秘密は、モデルナのユニークな創業の歴史に隠されている。

モデルナは、米・マサチューセッツ州ケンブリッジにある製薬企業である。その創業は2010年。まだ10年そこそこの歴史しか持たないモデルナは既に時価総額が1300億ドル（約15兆5000億円）に達しており、ビッグファーマの仲間入りをしている。

その売上高は、新型コロナワクチンが世界で摂取された2020年、8億300万ドル（約890億円）に達した。

現在、CEO は記事の冒頭で自信に満ちた発言をしていたステファン・バンセル氏が務めているが、実は彼は創業者ではない。彼の CEO 着任は創業から約1年後の2011年だ。

そのとき「ベンチャーキャピタル」がやっていたこと

バンセル CEO は自身で「モデルナの2人目の社員」と語っている。

事実上の創業者はハーバード大学で幹細胞を研究し、メッセンジャーRNA で成果をあげた

デリック・ロッシ氏と言われているが、じつはそれをバックアップし、モデルナの創業と開発を支えているのはベンチャーキャピタルだったのである。

その名は「フラッグシップ・パイオニアリング」(FP)という。

彼らがベンチャーキャピタルとして革新的なところは、自らプロジェクトを生み出し、その進捗段階に応じて資金を投入し続けることである。IPO（株式市場への新規上場）などを経て、十分な成長軌道に乗れば、最終的に株を売却して利益を得るイグジットを完了する。

実績も十分だ。過去 100 社以上の企業を設立。IPO させた企業は 24 社あり、イグジットは 47 社に上る。

日本ではあまり知られていないかもしれないが、じつはモ shoppingmode デルナもそんな FP が立ち上げたベンチャー企業なのだ。では、そんな投資家に支えられるモ shoppingmode デルナはいま何をしようとしているのか。後編『コロナワクチン「モデルナ社」、5 年後・10 年後に「医療・健康・ヘルスケア」をここまで激変させる！』では、モデルナの衝撃的な経営戦略について詳細にレポートしよう。